

第7部 青年学級によせて

◇新人担当者として関わって

公民館学級

加藤 沙耶香

私が青年学級を知ったのは広報で担当者募集の告知を偶然見つけたことです。いろいろな年代の方とお話してみたいと思ったのをきっかけに、開級式から参加しました。それまでボランティアの経験も少なく、ボランティアというと、支援する、お手伝いする、そんな単純なイメージしかありませんでした。障がいのある方と活動することも初めてで、何をして、何を話せばいいのだろうと、初めて参加する日はとても緊張したのを覚えています。

しかし、そんな心配や不安は全く必要ではありませんでした。初めて参加した開級式、初めて会う方、初めて聞く曲ばかりでした。不安で細々といた私に声を掛けてくださった青年の方、すぐに名前を覚えてくださり、「次回も来てくださいね」と言ってくくださったこと。学級ソングの歌詞、青年の方がとても楽しそうに歌われている姿。初めてだしそのうち溶け込めるかな、なんて浅はかな考えはすぐにひっくり返り、このすごいパワーの中に一緒に入りたいなと感じました。

また、何か迷ったり分からなかったりした時は、先輩の担当者や職員の方が親身になって聞いてくださり、アドバイスをいただきました。その中で、「みんなで一緒に学ぶ場、実践する場」という大切さ、面白さを自分なりにですが徐々に理解できるようになりました。そして以前の青年学級であった出来事などを伺い、学級ソングに込められた思いや、仲間の大切さなどにも気づくことができました。

最近、家族や久々に会う友人に「すごく明るくなったけど何かあったの」とよく聞かれます。自覚はあまりありませんが、1年間青年学級の活動を通して、歌を歌い、話し合いをし、大きな作品を作り、合宿にも行き、色々な経験ができました。その全てに「全力で取り組む」楽しさを教えてもらった1年だったなと感じます。

特に、初めて参加した若葉とそよ風のハーモニー

コンサートは、話し合い、練習、本番の全てが忘れられない大切な思い出となりました。

まだまだ微力で、役に立てている訳でもありませんが、今後も青年学級の活動を通して、楽しく全力で取り組み、自分の成長にも繋がれたらと思います。これからもよろしくお願いします。

小島 道子

公民館学級に入れて頂いて一年以上が過ぎました。会の皆様がとても明るく楽しそうにお互いに助け合いながら、自分の意見をはっきり言って自信をもっている姿を見て、心洗われる気持ちです。勉強させて頂いており、力を頂いている事がたくさんあります。

世の中もいろいろな個性の人達が互いに許容しながら助け合って生活できる社会になってきているように思いますが、それぞれの個性を輝かせてみんな一緒に楽しく生きていける世の中に一日も早くなれますようみんなでやっていきたいと思えます。

ひかり学級

飯塚 葵

青年学級のごことは、大学のボランティア部に入ったことで知りました。元々ボランティアに興味はあったものの参加したことはなく、ひかり学級が初めてのボランティアでした。知識も経験も全くない、こんな私がいきなり行って大丈夫だろうか、最初は不安と緊張でいっぱいでした。しかし実際に活動が始まってみると、青年や先輩担当者、職員のみなさんはあたたかく私を迎え入れてくれ、また来たい、そう思える時間になりました。

私は青年学級に参加する前は障がい者に対し、少なからずマイナスイメージを持っていました。ですが、青年たちとの活動を重ねひとりひとりのことをよく知っていくうちに、いいところも悪いところも彼らの素敵な個性なのだと思うようになりました。よく知らずに勝手なイメージを持っていたことを申し訳なく思うと同時に、気が付くことのできた自分は幸せ者だなと思います。

この1年間でたくさんの時間を過ごさせていた

だきました。つどいで歌う学級ソングもいくつか振りまで覚え、青年と一緒に歌って踊る時がとても楽しいです。お昼などに青年からいろんな話を聞く時がとても好きです。こうした時間を過ごすごとに青年学級のあたたかさを感じ、かけがえのないものだと思います。

まだまだ未熟で至らない点も多いですが、これからの活動が私にとっても青年にとっても充実したものになるよう、大切に過ごしていきたいと思います。

金子 大智

私は障がい者青年学級には大学に入学してから参加させていただきました。

青年学級自体は高校が福祉系で町田市の障がい者施設に実習させていただいていたことで施設利用者に話を聞いていたので、「町田ってそんなことやってるのか！」と同時は思ったので福祉を学んですぐの時に知っていました。

高校の時に福祉を学び介護福祉士の資格を取ったことで大学で自分のできる幅が広がっていると感じている頃に大学に青年学級を担当している職員の方が来て話しを聞いて、「どこかで聞いた覚えがあるな、もしかしたら実習でお世話になった利用者の方々に会えるかもしれない！」という理由で参加させて頂きました。

実際に参加してみて、思ったこととしては施設で働いてる時には見せていない様子が実習に行っていたことで見れたこと、いつもみんな笑顔で楽しく青年学級の活動をしているなどの実習では経験できなかった新しい経験をすることができました。

今の自分の夢が「人々の笑顔を守る福祉と心理の専門職」と「高齢者、障がい者、子どもの施設を建てて良い三角関係を作ること」です。高校で福祉、大学で心理と福祉を学んでいてそこで得たスキルを応用して青年学級でも活用しています。最近になってからは私も学級生も慣れてきてお互いにたくさん話せるようになり、一緒に楽しく笑い合うことも増えていて、また、学級生と私がお互いにお互いを高め合うことができる関係になりつつあるとも感じています。自分も学級生も学級

を通して成長したいと思っているのでこれからも高め合いながら一緒に成長していきたいと思います。

永島 龍馬

昨年の6月に青年学級担当者に参加させて頂き、様々な人と向き合うことでたくさんのことを学び、そして感じました。また、わかそよにも参加させていただきました。その中で主に心に残っていることを三つ挙げてみます。

一つ目にバスハイクについて。バスハイクではひかり療育園ではなく外出先(今回は相模原公園)での活動なので、普段より元気に歌を歌う。レストランで普段と違うご飯にすごく嬉しそうにしている。植物に興味を示し色々話す。動物に(好き嫌い含め)様々な反応を示すなど普段と違った行動や一面を見ることができました。

二つ目にクリスマス会について。私の担当した班ではハンドベルを演奏していたのですが、ここでは青年個人個人の得意分野が強く現れてたと思います。ギターが得意な青年はギターを弾き、ピアノが得意な青年はピアノを弾く。また、過去にハンドベルを扱ったことのある青年は率先してハンドベルの演奏方法を別の青年たちに指導していました。青年たちが各々得意なことを率先して行っていたのは普段通りなのですが、やはりイベント事なので、よりはっきりと見えた気がします。

三つ目は歌作りについて。担当した班は音楽班で歌を作りましたが、作詞の方法として『青年たちが普段思っていることを歌詞に入れよう』ということで話を聞きました。そこでは言葉がうまく伝えられない青年や、思っていることをうまく言葉にできない青年たちの話も(原理はよくわかりませんが)スイッチという方法で聞くことができました。そこでは「他の人と対等じゃない気がする」「自分のペースがあるのに、他の人にグズグズしていると言われる」「みんなと同じように当たり前前に生きている」などの話が出ました。このような話は、普段の環境では面と向かって聞く機会はほとんどないのでとても心に残りました。また、それらの気持ちが入った曲を成果発表会及びわかそよで胸を張って歌えたことも、より心に残

った一因かもしれません。

これらの一年目に感じた事を大切に、担当者として、これからも青年たちに向き合っていければと思います。